



宝永小だより

No.22
福井市宝永小学校
令和8年1月8日

学校教育目標:ひとり立ちできる子～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像:進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

明けましておめでとうございます



<「伝統文化宝永こども
いけばな教室」の正月花>

令和8年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願ひします。授業初日の全校朝礼では、校長講話として「今年は新しいことに挑戦しよう」ということについて話をしました。2学期後半の授業日数は、6年生が41日間、1～5年生が50日間と短い期間ですが、「わくわく交流デー」や「なわとびウィーク」、「6年生を送る会」、学校の大きな行事の1つでもある「卒業式」が行われます。6年生はもちろん、1～5年生にとっても進級に向けて、学年のまとめと次学年の準備をする大事な時期です。6年生は3月10日(火)の卒業式の日に、1～5年生は3月24日(火)の修了式の日に、やるべきことをやり終えた満足感と、大きな自信をもって1年間を振り返ることができるように、努力してほしいと考えています。子どもたちが、仲間と明るく元気に活動し、笑顔で楽しく学ぶことができるよう、教職員一同、精一杯努力したいと考えています。昨年同様、保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。



下記に、冬休み前の子どもたちの学習の様子をご紹介します。

読書月間…本の楽しさを再認識

11月4日(火)～11月28日(金)

本校では、読書タイムを設

定して読書の習慣をつけたり、「どうごんぶっくす」の皆様による読み聞かせや、「これきひょうしきの会」の池田様による紙芝居(1・2年生対象)をしていただいたりしています。さらに、本に親しむができるように、読書月間を設け、下記のような取組をしました。

- ①学年の「おすすめの本」の確認…年度末までに目標の冊数を読むように勧める。
- ②「1日15分」「いろいろな種類の本」…読書推奨のキーワード。
- ③学級で「読書パズル」…本を読んで、パズルのピースを埋めていく。本1冊で1枚のピース。
- ④読書ポイントラリー…個人でたくさんの本を読むことを目指す。
- ⑤「りんごの棚」の設置…特別なニーズのある子どもたちの資料を展示し、図書室を使いややすくする。
- ⑥読み聞かせ会…11月28日(金)に、12名の教職員による読み聞かせを実施しました。
- 【本の題名】・くれよんのくろくん・おこる・ピンクのれいぞうこ・さんまいのおふだ
・ぼくはちっともねむくない・海をかっとばせ・だれのパンツ?・ころべばいいのに
・あるヘラジカの物語・の・Bark George・そそそ
- ⑦親子読書…冬季休業中に実施。



<読み聞かせ会>

<4年児童「おこる」の感想>この本を聞いて、いろいろなおこられる場面があつて、おもしろいと思いました。この本でおこった後は、気持ちよくないのにおこってしまうのは何でだろうと思いました。

<5年児童「ピンクのれいぞうこ」の感想>最初は、ずっとテレビを見ているだけの生活をしていたけど、ピンクのれいぞうこを見つけてからは毎日を楽しめるようになったと思いました。最後に出かけた時は、まだやったことのない事にちょうどせんしにいったんじゃないかな、と思いました。わたしも、色々な事にちょうどせんしたいです。

3・4年生 出前授業「音楽鑑賞教室」

12月1日(月)

声楽家の〇〇〇〇氏とピアノ伴奏

者に〇〇〇〇氏をお招きして、「音楽鑑賞教室」が開催されました。ゲストティーチャーから本校の一つ前の校歌が紹介され、子どもたちは楽譜を受け取り、一緒に歌いました。その後、その校歌を作曲した丸岡町出身の「今川節(いまがわせつ)」が作った様々な曲を生で鑑賞したり、一緒に歌ったりして楽しみました。



<一緒に歌う子どもたち>

<3年児童の感想>わたしは、言葉が同じでも、メロディがちがう歌もあるんだなと思いました。ふだんの「ちょうどよう」の歌と、北原白秋の作詞、今川節の作曲した「ちょうどよう」があるんだなと思いました。

2年生 コラージュに挑戦する 12月2日(火)

福井県では、学校と文化施設が連携して「ふれあいミュージアム」という出前授業を行い、子どもたちの文化・芸術を楽しむ素地づくりを進めています。この日は、福井県立美術館の学芸員と福井県文化振興課の職員の方をお招きして、「ペタペタコラージュ」を実施しました。コラージュとはフランス語で「のりで貼る」を意味する言葉で、写真や雑誌、絵、文字など様々な素材を切り貼りして一つの作品を構成する美術技法や表現方法です。はじめに、美術館から持ってきていただいた、コラージュ作品を鑑賞しました。子どもたちは「これは、宇宙の絵かな?」「ゾウがいる!」「後ろにまちがあるよ!」など、コラージュの世界に取り込まれました。その後、自分たちでもコラージュ作品を作り、大いに楽しみました。



<コラージュづくりを楽しむ子どもたち>

全校で人権について考える 12月9日(火)

12月4日(木)～10日(水)は、人権週間でした。

この期間に、今月の歌「手のひらを太陽に」を歌ったり、今年度の各クラスの人権目標について振り返って話し合ったりしました。そして、各クラスの代表者がこの話し合ったことを、昼の放送で発表しました。人権集会では福井県人権擁護委員協会福井市支部の皆様をお招きして、「自分と人との違いを認め合う～良い人間関係を作っていくには～」というテーマで、人権について考えました。まず、人権擁護委員の皆様による紙芝居「ぼくのきもち きみのきもち」が上演されました。そこでは、主人公のシバ夫といじめっ子(ブル太郎)がケンカをして体を入れ替わり、シバ夫はブル太郎の家の事情や気持ちを知り、ブル太郎もシバ夫の気持ちを理解して、最終的に仲直りしてクラスにも平和が戻る、というストーリーが展開されました。その後、子どもたちはとなりの人と「良い人間関係を作っていくにはどうするとよいか」について意見交換をしてから、全体で感想交流をしました。子どもたちの感想発表からは「『いじめっ子』と『いじめられっ子』の体を入れ替わり、お互いの立場を経験することで、相手の気持ちを理解し、自分の行動を見つめ直す大切さ」を感じ取れていたように思いました。人権擁護委員の代表者がまとめの話を終えると、会場に「人KENまもる君」が入場し、子どもたちは歓喜の声を上げました。そのキャラクターは「やなせたかし」氏のデザインであることが伝えられ、全校で同氏が作詞した「手のひらを太陽に」を歌い上げ、あたたかい気持ちになりました。最後に、人権擁護委員の代表者から啓発グッズが贈呈され、子どもの代表がお礼の言葉を述べて、人権集会を終えました。



<人権擁護委員の皆様からメッセージ>

<6年児童の振り返り>今日の人権集会で、いじめをしないためには、相手の気持ちになってみたり相手の気持ちを考えてみたりすることが大切だと思いました。紙しばいで、シバ夫とブル太郎が入れ替わって相手の気持ちに気づいていたからです。これからは、いじめをしないように相手の気持ちを考えて行動したいです。

5年生 「宝永交通安全キャラバン」～SDGs in 宝永～

12月10日(水)・15日(月)

5年生の子どもたちは総合的な学習の時間に、SDGsについて学習を進めており、目標3「すべての人に健康と福祉を」のターゲット「2030年までに、交通事故による死傷者を半減させる」に着目したグループが、「交通事故のない地域を目指そう」と、校区内の3幼稚園(聖徳・聖三一・尾上)で横断歩道の渡り方を伝える劇を行いました。特に福井県は信号機のない横断歩道を歩行者が渡る際のドライバーの一時停止率が低いことを知り、子どもたちは「横断歩道を渡る時は手を挙げて気づいてもらおう」や「渡った後には運転手さんにお辞儀をしよう」などと、園児さんに呼びかけることができました。



<劇で伝え、模擬体験を運営する子どもたち>

えがお リース作りを楽しむ 12月10日(水)

えがお学級の自立

活動の時間に、「クリスマスリース」や「お正月かざり」作りを行いました。子どもたちは装飾・飾り(デコレーション)として、クリスマス用に赤やゴールドなどのリボン、松ぼっくりやドングリなどの木の実、小さなボールや星型、ベル等を、お正月用に松、竹、梅、南天、葉牡丹(ハボタン)などの縁起物、金・銀・赤・白など様々な色や種類の水引、扇等を自分たちでたくさん準備して持っていました(保護者の皆様、ご協力ありがとうございました)。その中から気に入ったものや好みのものを選び、ハサミ、グルーガン(接着剤)などの道具を使って、土台のリースに取り付けていき、リース作りを楽しみました。オリジナルのクリスマスリースやお正月かざりができあがり、教室前の廊下に飾られました。また、子どもたちからいただいたお正月かざりを校長室にも飾りました。ありがとうございました。



<協力して制作を進める子どもたち>

*日本新聞協会主催の「第16回いっしょに読もう! 新聞コンクール」において、本校は、今年度も、「学校奨励賞」を受賞しました。6度目の受賞です。個人の部では全国奨励賞を1名、県NIE推進協議会奨励賞を4名が受賞しました。保護者の皆様には、「ファミリーフォーカス」への取組、ありがとうございます。今後とも、親子で新聞に親しむ活動に、ご協力をお願いします。